

令和 8 年 8 月 28 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

大阪府		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
大阪教育大学附属池田小学校	国立大学法人大阪教育大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
大阪教育大学 附属池田小学校	https://fuzoku-ikeda.oku.ed.jp/kyoiku/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
大阪教育大学 附属池田小学校	https://f-ikeda-e.oku.ed.jp/home/	https://f-ikeda-e.oku.ed.jp/home/

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している

・実施していない

＜特記事項＞

毎年度末に地域の警察、消防、行政、および近隣住民等の関係者を招聘して「学校安全管理委員会」を定期開催している。本委員会において、本校における安全教育および危機管理体制の具体的な実施状況を包括的に報告するとともに、外部の専門的な知見から指導助言を仰ぎ、次年度の体制改善に還元する仕組みを継続している。

令和7年度においては、日本初のアドバンスドセーフティプロモーションスクール(ASPS)認証校としての先導的な役割を果たすべく、「学びを紡いでいく子供」を研究主題に据えた全国規模の教育研修会を対面形式にて実施した。本研修会では、安全科を含む複数教科等の公開授業に加え、公開不審者対応訓練を展開し、広く教育現場へ実践知を発信した。

さらに、これまでの蓄積をもとに安全科のカリキュラムマネジメントを刷新し、他校への普及可能性（普遍性）を高めたパッケージ型の安全教育カリキュラムの再編と、学校間連携を通じたモデルケースの構築を継続的に進めている。

3. 実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、児童が身の回りの様々な危険を知り、その危険に対処する方法を学ぶこと、および自他の生命を尊重し、安全な社会の形成者となることを目標としている。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

児童対象の学校教育診断においては、安全科の授業に対して9割以上の児童が肯定的な認識（「楽しい」「どちらかといえば楽しい」）を示している。これは、安全科独自の見方・考え方を働かせ、児童が主体的に探究的な学びに没頭できる学習環境のデザイン（共通材の導入等）が機能している成果と言える。

一方で、授業内で得た安全に関する多角的な気づきや概念的理解を、児童一人ひとりが日常生活の具体的な実践場面にまで自律的に引き付け、落とし込む点に未だ深化の余地が見られる。学級内での対話や関わり合いの充実が、個々の日常行動の持続的な変容にまで確実に還流していくかどうか、現在のアプローチにおける重要な検証課題である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

独自に設定した安全科の資質・能力の確実な定着を図るため、6年間を見通した系統的な指導計画に裏打ちされた授業実践を推進する。上記の課題を克服すべく、安全科の授業終末や日常の省察において「実生活と関連付けながら自らを深く振り返る場（リフレクション）」を構造的に設定し、知識の一過性化を防ぐ。児童が他者の多様な視点や解釈に触れ、自らの考え方に置き換えながら、社会全体の安全を「我が事」として捉えられるような、開かれた学び（地域・家庭との接続）を具現化していく。

これらを学校組織として担保するため、安全科を管轄する校務分掌の機能拡大や体制の強化など学全校体制で持続可能な安全教育の推進基盤を強固なものにしていく。